

(5) 実践例3 道徳自作教材の開発

資料開発の視点で副教材を改めて見直し中心発問の問いかたや良さが見える機会になった。

多くの人に協力をしていただきじっくり調査したことで、教師が多くのことを学び教材作成への思い入れが児童生徒に伝わり、真剣に考える姿につながった。地域教材で学ぶ素晴らしさを教師も子どもも感じることができた。

① 大仁小学校自作教材「川かんじょう」6年 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

どうして「川かんじょう」のような伝統行事を続けるのでしょうか。

神事の由来

神様を祭るために
結んでいる。

暴れ川を鎮めるため。

地域のことを思っているから。

昔からやっているから。

人とのつながりを感じる。

自分たちでやめるわけにはいかない。

みんなが幸せに暮らすために。

しゃぎり

川かんじょう

板書計画

- ・ 暴れ川だった狩野川の水霊を鎮め、水吉から村を守るためと、水難者を供養するためのお祭りである。
- ・ 狩野川台風後、一時行われなくなった。ちなみに、狩野川台風での、神島地区犠牲者は一人もいなかった。
- ・ 小学生四・五・六年生は参加しなければならぬ。

地域とのつながり

受け継ぐ



どんと焼き

三番俵
(熊野神社)
(大仁神社)

② 大仁中学校自作教材

ア「アイアンバンドを知っていますか」～郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度～

私は今、反射炉の英語ガイドを勤めています。「世界遺産はゴールではなくスタートである」だからこそ目の前にある世界遺産の価値を学び、世界の人人々へ未来の世代へと伝えていきたい。アイアンバンドの価値を伝えてくださった外国人ご夫妻との出会いに感謝しながら反射炉を見守っています。



～中略～

今から二十年前、大学時代の夏休みの出来事です。故郷大仁に帰省していた私は、葦山遊びに行った道の途中で、外国人の老夫婦に日本語で声をかけられました。「反射炉です」「反射炉とはなんですか」とまさに「近くに説明が書かれた看板があるはずです」と答えて立ち去ってしまいました。反射炉は小学生時代に遠足で訪れただけで、知識もなく説明できなかったからです。せっかく外国の人と話せる機会だったので、残念に思いました。偶然、先ほどの外国人の夫妻に帰り道で会い、「主人から「反射炉の歴史は、すごいね。アイアンバンドにびっくりしました。あなたの故郷は素晴らしい」とほめられたもの、アイアンバンドの意味もわからない私は赤面していました。

アイアンバンドって知っていますか (大仁中学校自作資料)

〇ねらいとする価値について

私たちの郷土には先人の築いてきた優れた文化遺産や、大切に守られてきた伝統などがたくさん残っている。そこで世界遺産に認定された「葦山の反射炉」やその建造の中心人物となった江川英龍の業績などを志龍塾伊豆の国市中学校講演会を開催し、江川文庫主務橋本敬之先生を招いてお話をお聞きした。職場体験学習を実施し、地域の方との触れ合いを進めてきた。家族や先祖はもちろん、現在の地域社会を築いてくれた先人たちの努力があったからこそ現在の生活があり、今の自分があるということに気づき、日常接する地域の人々との人間関係を見直し、地域を愛し発展させていく心情を高めたい。

資料は葦山反射炉が、大切に保存されてきた歴史を文献や聞き取り調査をし、中学生向けにまとめたものである。全国にあった反射炉が新たな技術の導入により廃炉となり、荒廃の一途をたどり、取り壊された。しかし、葦山反射炉は、取り壊しや地震などによる崩壊の危機を乗り越え、地域住民や反射炉を守ろうとする過去の人たちによって大切に守られてきたという歴史がある。そこで、外国人夫妻から反射炉の保存方法について話し掛けられても理解できなかった主人公が、成人してから反射炉の歴史やアイアンバンドの価値を知り、先人たちが守ってきた地域の誇りを理解し、現在英語ガイドとなっているという方のエピソードをヒントに資料を作成した。

世界文化遺産 葦山反射炉

★自己の生き方について考えを深める学習につなげ、特色ある体験学習や講演会と関わらせて学習できる教材を開発できた。